

COVID-19 感染拡大と大阪府の 口腔がん初回治療患者数と 初回治療時の状況の変化

Shihoko Koyama

小山史穂子

大阪国際がんセンター



優秀
ポスター賞

この度は、日本がん登録協議会第31回学術集会にて優秀ポスター賞を受賞させていただき、誠にありがとうございます。受賞した演題は COVID-19 流行前後の大阪府における口腔がん初回治療患者の状況について比較した研究になります。

COVID-19 流行による影響は多方面で報告されておりますが、地域住民を対象に診療科別の受診控え意向について検討した自身の先行研究で、他科に比較して歯科の受診控え割合が高かったことから口腔がんの罹患について 2019 年と 2020 年の初回治療患者の状況を比較しました。

初回治療患者数について、2019 年が 814 件から 656 件と 19.4%減少し、特に第一波の 3~5 月は 2019 年が 271 件なのに対して、2020 年では 145 件と約半分になっていました(図)。これは、緊急事態宣言や外出自粛の影響ではないか

と考えられます。

次に、年齢、性別、府外からの来院、詳細部位は両群間で有意な差がなく、診断~手術の日数のみ、2019 年が 31.26 日なのに対して、2020 年が 27.69 日と有意な減少が認められました。診断~手術の日数が減少したことについては、オランダの先行研究でも同様の結果を示しており、初回治療患者数が減少したことにより、COVID-19 の感染対策下であっても、スムーズに手術へと進めた可能性が示唆されました。

今回の受賞を励みとし、今後もがん登録データを活用した研究を継続し、研究成果を社会に還元していきたいと考えております。最後になりましたが、がん登録データ作成に携わるスタッフの皆様、ご指導いただいた先生方に心より感謝申し上げます。

図. 月別の口腔がん初回治療患者数

